

保安林予定森林告示附属明細書

(令和8年5月19日 愛媛県告示第447号附属)

- 1 保安林予定森林の所在場所
松山市東川町乙117の16、乙120の1
- 2 指定の目的
土砂の流出の防備
- 3 指定施業要件
 - (1) 立木の伐採の方法
 - ア 次の森林については、主伐は、択伐による。
東川町乙117の16・乙120の1（以上2筆について次の図に示す部分に限る。）
 - イ その他の森林については、主伐に係る伐採種を定めない。
 - ウ 主伐として伐採をすることができる立木は、当該立木の所在する市町に係る市町村森林整備計画で定める標準伐期齢以上のものとする。
 - エ 間伐による伐採をすることができる箇所は、樹冠疎密度が10分の8以上の箇所とする。
 - (2) 立木の伐採の限度
 - ア 伐採年度ごとに皆伐をすることができる面積の限度は、重信川区域の土砂の流出の防備のために指定された保安林（当該保安林が2以上あるときは、その集団。以下アにおいて同じ。）のうちその立木の伐採につき択伐が指定されている森林（保安林の機能の維持又は強化を図るために皆伐による伐採をすることができるものを除く。）及び主伐に係る伐採の禁止を受けている森林以外の森林の面積を当該保安林についての植栽の指定に係る樹種又は更新期待樹種の標準伐期齢（これらの樹種が2以上あるときは、それらの標準伐期齢の面積加重平均年齢）に相当する数で除して得た面積（以下「総年伐面積」という。）に前伐採年度における伐採につき森林法第34条第1項の許可をした面積が当該前伐採年度の総年伐面積に達していない場合には、その達するまでの部分の面積を加えて得た面積とする。
 - イ 伐採年度ごとに皆伐による伐採をすることができる1箇所当たりの面積の限度は、10ヘクタールとする。
 - ウ 伐採年度ごとに択伐による伐採をすることができる立木の材積の限度は、当該伐採年度の初日におけるその森林の立木の材積に択伐率（当該伐採年度の初日における当該森林の立木の材積から前回の択伐を終えたときの当該森林の立木の材積を減じて得た材積を当該伐採年度の初日における当該森林の立木の材積で除して得た割合をい

い、その割合が 10 分の 3 を越えるときは、10 分の 3 とする。) を乗じた材積とする。ただし、保安林の指定後最初に行う択伐による伐採にあつては、次に掲げる森林ごとに 10 分の 3 を乗じた材積とする。

東川町乙 117 の 16、乙 120 の 1

エ 伐採年度ごとに間伐に係る伐採をすることができる立木の材積の限度は原則として、当該伐採年度の初日における森林の立木の材積の 10 分の 3. 5 を越えず、かつ、その伐採によりその森林に係る樹冠疎密度が 10 分の 8 を下つたとしても当該伐採年度の翌伐採年度の初日から起算しておおむね 5 年後においてその森林の当該樹冠疎密度が 10 分の 8 までに回復することが確実であると認められる範囲内の材積とする。